

第 55 回一志会例会 レポート

2019 年 11 月 27 日

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティ」ですが、11 月 27 日に第 55 回例会を開催しました。

今回は、ゲストとして佐藤輝英氏(BEENEXT Capital Management Pte. Ltd. Founder & CEO)をお迎えして、「アジア新興国のテクノロジービジネス」と題したご講話をいただきました。



【講師 佐藤 輝英 氏】

佐藤氏は、1975 年生まれ、慶應義塾大学総合政策学部卒業。

在学中からソフトバンク社にて米国の EC 決済技術を持つサイバーキャッシュ社(現ペリトランス社)の日本法人立ち上げに参画。

2000 年に仲間とともに E コマースの BEENOS 株式会社(旧ネットプライスドットコム)を創業、社長に就任(2014 年まで)、2004 年同社を東証マザーズ上場へと導きました。また、ご自身のアントレプレナーとしての経験を元に次世代の起業家たちをサポートするべく、2011 年にスタートアップ支援プログラム「Open Network Lab」をデジタルガレージ社、カカコム社と共同で立ち上げました。

続いて、2015 年、シンガポールを拠点とするベンチャーキャピタル BEENEXT を立ち上げ、インド、東南アジアなど、主に新興国のインターネット企業への投資を進め、グローバルな起業家ネットワークを構築して、幅広く活躍されておられます。2008 年には世界経済フォーラムより「Young Global Leaders」に選出されています。

佐藤氏は、学生時代にインターネットの実用化が始まり、その将来性が大きいことを確信して、国内で起業し上場企業に育てたところで、その経営を学生時代からの創業仲間に委ねたこと、そして、BEENEXT を設立し、今後、急速に経済成長が見込まれるインドや東南アジアに着目して、これまでの経験を活かした投資・支援事業に進出した経緯から説明されました。想いは、「起業家による、起業家のための、起業家ネットワーク」づくりで、人との縁を大切に、起業家もないベンチャーの中から逸早く可能性を見出して投資と経営支援を行うのを特色としています。一柳さんから教えられた、金儲けよりも大事な「人儲け」ができた、との言葉が印象的でした。

経済成長は人口規模に依存するとの考えのもと、中国に続くのは、インドであり、インドネシアなど人口増加の大きな東南アジアであるとして、これまでに主にアジアの新興国の 170 社に投資をしています。毎年、投資先企業の経営者が一堂に会して経験交流などを行い、協力しあうというのも、佐藤氏のこだわりです。これからのデジタル経済は新興国アジアが牽引すると考えておられ、その特色を①モバイルファースト、②世界中の資本が流入、③リープフロッグ(飛び蛙)と整理されました。投資先には既にユニコーンに成長したものもあることをいくつかの事例で説明されましたが、その経営者の多くが、いわゆる海亀族(米国など海外で実績を積んだ人物が帰国して起業)である、との指摘もありました。

学生時代から国境を越えて経験を積み、常に積極的にチャレンジしている佐藤氏のほとばしるような話に、会場は圧倒されるとともに、日本との比較など質問が相次ぎ、関心の高さが窺われました。

この後、会員スピーチで、富加見・MC データ取締役副社長から「データとサービスで、世の中を変えていく」と題して、クラウドを活用し建設分野での様々な現場データを管理・提供するサービスからはじめて、対象領域を拡大しているというユニークな取り組みについて説明をいただきました。

続いて、坂本・パラマウントベット常務取締役、太田・電通パブリックリレーションズ取締役常務執行役員、堆・宝印刷社長、濱千代・キューピー取締役上席執行役員、若林・阪急阪神不動産代表取締役社長、松本・ソニー執行役員、中村・セブン&アイ・ホールディングス執行役員、小沼・東京証券取引所常務執行役員、井戸・パナソニック執行役員、タン・APP ジャパン代表取締役会長から、それぞれ近況報告がありました。

その後も、ゲストの佐藤氏を囲んで質疑などが続き、いつものように和気藹々に談笑が続く中、予定の時刻を迎えました。



富加見 順 氏



坂本 郁夫 氏



太田 浩嗣 氏



堆 誠一郎 氏



濱千代 善規 氏



若林 常夫 氏



松本 義典 氏



中村 英和 氏



小沼 泰之 氏



井戸 正弘 氏



タン ウィ シン 氏



講義風景